令和5年7月21日

課題解決型実践事業
「身体表現的手法を用いた友達作りワークショップ（飯野小学校）」
業務委託

報告書

友達作りワークショップ

日時　：　令和5年6月27日（火）

講師　：　yummydance（ヤミーダンス）のメンバー４名

場所　：　丸亀市立飯野小学校　体育館

対象　：　丸亀市立飯野小学校

１年東組、１年西組、２年東組、２年西組の児童１０３名

日程	スケジュール	学年・クラス
６月27日（火）	1時間目　8：35～9：20	1年東組
	2時間目　9：30～10：15	1年西組
	3時間目 10：35～11：20	2年東組
	4時間目 11：30～12：15	2年西組

アンケート結果

回答者　：　丸亀市立飯野小学校教員　７名

管理職1名
学級担任4名
特別支援学級担任２名

ワークショップの感想を５段階で評価

全くそう思わない		どちらでもない		とてもそう思う
1	2	3	4	5

		４か５で評価した割合	7名の平均点
1	普段より積極的に参加していた児童が多かった	100%	4.71
2	新しい一面がうかがえた児童がいた	100%	4.43
3	普段より自己表現していた児童がいた	100%	4.86
4	普段は消極的な児童が楽しそうにしていた	100%	4.86
5	普段は一緒にいない児童同士の交流が見られた	100%	4.71
6	自分自身にも新しい気付きがあった	100%	4.43
7	授業に取り入れられそうな要素があった	100%	4.71
8	ワークショップ後、児童の様子に変化があった	86%	4
9	今後も舞台芸術のプロによるワークショップを取り入れたい	100%	4.86

アンケートの自由記述欄の回答

子どもたちが協力して、考えて、動いていた姿がとてもよいと思いました。

クラスでも取り入れて、普段の学級経営に活かしたいと思います。

このようなワークショップがあれば、また是非参加したいです。

できないからもうしないと言って周りをうろうろした子がいました。
その子にもスタッフの方が優しく教えてくださり、できるようになりました。
苦手意識がある子も、できる喜びを感じられるワークショップでした。

普段なら叱られてしまう場面でも、優しくみんなで楽しく活動しながら待つ姿勢が、とてもあたたかく、
私もそうしていきたいなと感じました。

「先生、またしたい！」と伝えに来る児童がたくさんいました。
児童の表情がとても生き生きとしていました。

自由に表現するということに緊張したり、どう動いたら良いか分からない児童がいたが、
徐々に動きがのびのびとしてきて、やりたいという気持ちが持てていました。

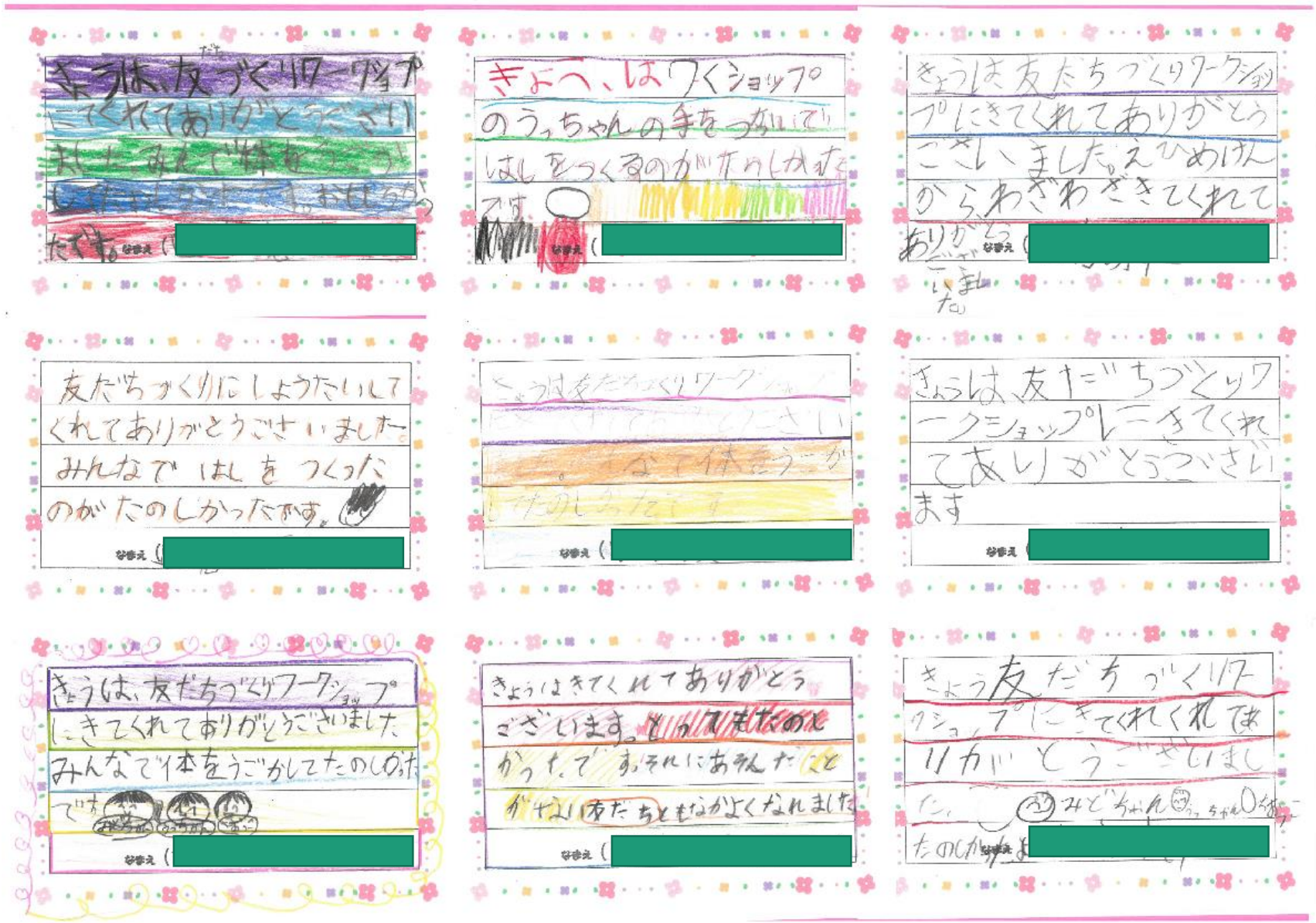
知的在籍児童や病弱在籍児童も、途中固まる場面もありましたが、楽しく友達と関われました。

ワークショップ写真

「自分がすき 友達がすき 飯野町がすき」な飯野っ子

「自分がすき 友達がすき 飯野町がすき」な飯野っ子

児童からの手紙



きょう、友だちづくりワークショップにきてくれてありがとうございました。みんなで体をうごかしたのしかったです。なまえ（[redacted]）

きょう、はワークショップのうっちゃんの手をつないではしをつくるのがたのしかったです。なまえ（[redacted]）

きょうは友だちづくりワークショップにきてくれてありがとうございました。えひめけんからわざわざきてくれてありがとうございました。なまえ（[redacted]）

友だちづくりにしようたいしてくれてありがとうございました。みんなではしをつくったのがたのしかったです。なまえ（[redacted]）

きょうは友だちづくりワークショップにきてくれてありがとうございました。みんなで体をうごかしたのしかったです。なまえ（[redacted]）

きょうは友だちづくりワークショップにきてくれてありがとうございます。なまえ（[redacted]）

きょうは、友だちづくりワークショップにきてくれてありがとうございました。みんなで体をうごかしてたのしかったです。なまえ（[redacted]）

きょうはきてくれてありがとうございます。[illegible]たのしかったです。それにあそんだことがない友だちともなかよくなれました。なまえ（[redacted]）

きょう友だちづくりワークショップにきてくれくれてありがとうございました。みどちゃん、[illegible]ちゃん、[illegible]たのしかったよ。なまえ（[redacted]）

所感

1年生及び2年生のそれぞれ2クラスずつを見て、同学年でもクラスの様子は各々特徴があった。楽しいと感じることに学年の違いや日常のクラスの雰囲気などの影響はそれほど無いようで、子どもの新たな一面が垣間見えると感じた。

【1年生】

新しい事やクラスのみんなと一緒に何かをするという事に慣れていないのか、積極的な子と消極的な子の2つに分けられ、その中間的な子があまりいないと感じた。周りを見渡すというより、自分事として取り組む中で、積極的に友達との関わりを持ち、楽しい・面白いと感じてもらう中で、自然とコミュニケーションが身についていると思われる。

【2年生】

１年生と比べ小学校における集団行動の生活が1年長い分、物事の理解の早さや発想の転換ができていると感じ、お兄ちゃん・お姉ちゃんのような一面も見えた。特に障がいがある子への配慮（一緒にやろうとか大丈夫という声掛け）が見え、クラスの和のようなものが見えた。

【プログラムを通じて】

達成感や成功という体験が子どもの成長には一番のエッセンスだと感じた。特に印象だったのは「輪になって隣の人に拍手を伝え、1周するタイムの最速を目指す」というプログラムを実施したところ、3回目で成功したときにクラス全員が手を取り合いながら喜び、サッカーのゴールパフォーマンスのような人の山ができていた。

こういったワークショップの体験は、楽しいという感情と同時に、協調性やコミュニケーション能力、自己肯定感の向上が期待できる。何をやっても認められ、拍手が起きるという達成感、褒められるという経験、答えがないため多様に創造できることの幅の広さ、奥手な子でも勇気を持てる事がこのワークショップの特徴だと思うので、子どもにとって非常に有意義であり、貴重な体験を提供できたと考える。